

2020年9月新着情報



海外／国際機関で行われている／行われた興味深いイベント／ 取り組み

- **【コロナ関連】**国連: COVID-19 社会経済対応計画(SERP_s)における高齢者の包摂に向けたチェックリスト
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/news/2020/08/inclusion-olderpersons-covid19/>
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/wp-content/uploads/sites/24/2020/08/Checklist-inclusion-Older-Persons-in-SERPs.pdf> (チェックリスト1)
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/wp-content/uploads/sites/24/2020/08/HRBA-LNOB-Checklist-for-SE-Responses-COVID-19.pdf> (チェックリスト2)
 - COVID-19 社会経済対応計画(SERP_s)における高齢者の包摂に向けて、高齢化に関する機関グループが発表した行動・ツール・資源のチェックリストは、国連事務総長の政策文書「**COVID-19 が高齢者に及ぼす影響**」(※)に沿って作成されており、この度のパンデミックが及ぼす甚大な社会経済的影響へ、各国が高齢者を優先グループとして対応する際に役立ててもらうことを目指している。このチェックリストは、高齢者が取り残されないよう、社会経済的な影響のアセスメントや対応、復興計画で人権ベースのアプローチがとられているか評価する際に、国連の常駐調整官システムで初期のガイダンスとして役立つためのものである。このチェックリストの共著者は、国連社会経済局(DESA)と国際連合人権高等弁務官事務所(OHCHR)である。
(※)COVID-19 が高齢者に及ぼす影響のサイト
<https://www.un.org/development/desa/ageing/wp-content/uploads/sites/24/2020/05/COVID-Older-persons.pdf>



海外での興味深い取り組み・ニュース

- **【コロナ関連】**英国: 社会的ケアセクターCOVID-19 支援タスクフォースの立ち上げ(8/7)
 - https://www.gov.uk/government/groups/social-care-sector-covid-19-support-taskforce?wp-linkindex=3&utm_campaign=Coronavirus_social_care_update_7_August_2020&utm_content=dhsc-mail.co.uk&utm_medium=email&utm_source=Department_of_Health_and_Social_Care#advisory-groups
 - このタスクフォースの目的は、ケアセクターで政府が整備した 2 つの支援パッケージ(社会的ケア行動計画とケアホーム支援パッケージ)において、同セクターで要介護者および職員の COVID-19 感染リスクを抑えるために、協調し決然とした行動を確実にとることである。タスクフォースでは、地域での感染収束に向けた全国キャンペーンを支援するほか、今後 1 年間にわたって COVID-19 がケアセクターに及ぼす影響を検討し、同期間を通じてその支援計画の助言を行っていく。タスクフォー

スではまた、利用者および家族介護者の健康やウェルビーイングを向上させるつながりや活動を維持しながら、人々ができるだけ安全に暮らせるよう取り組む。上記 2 つのパッケージおよび他の COVID-19 対応案の実施について、8 つの諮問グループ(学習障害・自閉症がある人、高齢者・認知症の人、メンタルヘルス、自己主導型支援、介護者、BAME コミュニティ、労働、成功事例・ガイダンス・イノベーション)がタスクフォースに助言を行っている。

- **【コロナ関連】英国：認知症患者に見られる恐るべきコロナ関連死亡率(8/12)**
 - https://www.bbc.com/news/uk-wales-53739223?intlink_from_url=https://www.bbc.com/news/topics/c40rjmqdw04t/elderly-people&link_location=live-reporting-story
 - 国家統計局(ONS)によると、ウェールズにおける 2020 年 3 月から 6 月までのコロナ関連死は 2,450 人だったが、そのうちアルツハイマー病またはその他認知症の人は 543 人だった。他方、下気道疾患のある人では死亡者は 233 人、循環器系疾患では 222 人、糖尿病では 49 人だった。イングランドでは更に状況は厳しく、同期間におけるコロナ関連死のうち、1/4 が認知症の人だった。また、コロナ関連ではない死亡届けの数に関する別の ONS 報告では、パンデミック中にイングランドとウェールズで、いわゆる「超過死亡」が認知症の間で 52.2%増えたことが示されており、他のどの疾患よりも増加率が高かった。認知症の人がコロナウイルスの影響を誰よりも大きく受けていた理由としては、パンデミック初期にケアホームで職員用の個人防護具(PPE)が足りなかったことなどが挙げられるが、より広範な背景要因については今も疑問が残されている。

- **【コロナ関連】英国：COVID-19 の影響へ対応するために社会的処方へ 500 万ポンド投入(8/16)**
 - <https://www.gov.uk/government/news/5-million-for-social-prescribing-to-tackle-the-impact-of-covid-19>
 - COVID-19 パンデミックを受けて、人々のつながりや健康・ウェルビーイングの維持を支援するために、政府は National Academy for Social Prescribing に 500 万ポンドを投入した。同団体では、NHS イングランドや他の団体(例：スポーツ、芸術、金融関連)と連携し、様々な地域活動を支援していく。この資金を使って、COVID-19 への対応で人々のメンタルヘルスやウェルビーイングを改善するために、地域コミュニティの取り組みと住民をつなげていく。たとえば緑地の改良、歌や運動の活動、個人に合った債務アドバイスなどが挙げられる。

- **イタリア：夢の大学卒業を実現した 96 歳**
 - <https://nationalseniors.com.au/news/latest/ive-realised-my-dream-says-96-year-old-university-graduate>
 - <https://www.theguardian.com/world/2020/aug/05/realised-dream-italy-oldest-graduate-top-of-the-class-at-96>
 - 2020 年 8 月初旬、イタリアのパレルモ大学では、96 歳の Giuseppe Paternò 氏が優秀な成績を収めて卒業を迎えた。彼は幼少期の 1930 年代をシチリアで過ごし、大学進学を夢見ていたが、貧困・戦争・家族への支援などによって、それは叶わずにいた。しかし 2017 年、彼はようやくパレルモ大学の哲学部に入学することとなった。彼は朝 7 時に起きて勉強し、古いタイプライターを使って宿題を仕上げた。午後は休み、夜にまた勉強する日々が続いた。「近所の人からは、『この年で何故わざわざそんなことをするのか?』と訊かれましたが、年齢にかかわらず、夢を実現することの大切さをこの人たちは分からなかったのですね」と Paternò 氏は述べる。卒業まであと 2-3 の試験を

残すのみとなったその時、COVID-19 パンデミックによって状況は一変した。授業はリモートで行われるようになり、Patemò 氏は新しいテクノロジーを学ばなければならなくなった。そしてこの夏、96 歳になってついに彼は目標を達成し、イタリアで最高齢の大学卒業生となった。しかし、彼の夢はここで終わらない。「修士号を目指すことを考えています。母は 100 歳まで生きたので、この遺伝子が味方になってくれれば、あと 4 年大丈夫でしょう。」

● **【コロナ関連】米国：コロナ禍とハリケーンのダブル危機に直面するナーシングホーム**

- <https://www.statnews.com/2020/08/07/nursing-homes-hurricanes-covid-19/>
- ナーシングホームでは今年、コロナ禍の中でハリケーンの季節を迎え、入居者や職員の健康リスクを踏まえて避難すべきか否か、極めて困難な決断を迫られている。パンデミック以前でさえも災害時の避難対応は難しく、移動による入居者の健康状態悪化リスクや、避難しない場合の停電・水害リスクなどの判断が必要とされていた。しかし今年はパンデミックによって、入居者の感染リスク、周辺の病院の逼迫状況、避難時におけるソーシャルディスタンス確保の難しさなど、更なる困難が加わった。またホームでは、個人防護具(PPE)や職員不足がすでに問題となっている。施設や州では災害時の対応計画を立てており、またリモートでのワークショップで情報や意見交換を行っている。たとえば「コロナに感染していない入居者をまず移動させ、車両からの感染を防ぐ」、「移動中のトイレ休憩はできるだけ避けるが、車両の外に出る場合は徘徊時に備え、入居者は目立つ色のベストを着用し、防水ポケットにその人の健康状態やコロナ感染状況などの情報を入れておく」といった対応策が挙げられた。

● **【コロナ関連】米国：コロナ禍における大統領選：ナーシングホーム入居者の投票権をいかにして守るか？**

- <https://www.propublica.org/article/hundreds-of-thousands-of-nursing-home-residents-may-not-be-able-to-vote-in-november-because-of-the-pandemic>
- <https://abcnews.go.com/Health/nursing-home-residents-isolated-coronavirus-now-face-loom-ing/story?id=72700449>
- パンデミックの中での投票は、多くのアメリカ人にとってジレンマであり、直接投票所に行くことでの健康リスクをとるか、郵送での投票が開票に間に合うのかという不安をとるか、という選択に迫られている。コロナウィルスの感染リスクが高いケア施設の入居者にとって、このような不安は更に大きくなる。ナーシングホームおよびアシステッドリビングの入居者は全米で約 220 万人おり、その大半は高齢者である。そして高齢者は、若年層よりも選挙での投票率が高い。現在も施設入居高齢者の多くに外出や面会の制限がかけられている中、全米 15,000 か所のナーシングホームでは、健康と投票という基本的な権利の間で難しいバランスを取らなければならない前代未聞の大統領選となる。しかし 8 月末現在で、施設入居者が安全に投票できるよう保証するための総合的な計画は打ち出されていない。メディケア・メディケイド・サービス・センター(CMS)の代表は、この件について同機関が対応を検討中である、と ABC ニュースに語った。大統領候補であるバイデン氏(民主党)とトランプ氏(共和党)の両陣営に、ABC ニュースが本件について問い合わせたところ、民主党からはたとえば、コールセンターを設けて高齢者が郵送で投票する際の支援を行う取り組みなどが挙げられた。他方、共和党の代表は具体的な取り組みは挙げなかったものの、以前からトランプ氏が述べているように、郵送での投票について不正を懸念していた。ただし同代表は、ケア施設での不正投票はこれまで極めて少ないとも述べていた。

- **【コロナ関連】米国：大半の高齢者ケア施設は「現在の財務状況が続けば施設の存続が危うい」**
 - <https://www.fiercehealthcare.com/hospitals/majority-nursing-homes-say-they-won-t-last-a-nother-year-under-current-financial>
 - <https://www.ahcancal.org/News-and-Communications/Fact-Sheets/FactSheets/Survey-SN-F-COVID-Costs.pdf> (ナーシングホーム結果要約)
 - <https://www.ahcancal.org/News-and-Communications/Fact-Sheets/FactSheets/Survey-AL-COVID-Costs.pdf> (アシステッドリビング結果要約)
 - American Health Care Association (AHCA)と National Center for Assisted Living (NCAL)が 2020 年 8 月に行った全国調査では、回答したナーシングホーム(463 か所)の 72%およびアシステッドリビング(193 か所)の 64%が、「コスト増と収入減が現在のペースで続けば、あと 1 年もたない」と感じていた。また少なくとも 40%のナーシングホームは、現状では 6 か月すらもたないと述べていた。他の主な結果は以下の通り。
 - ◇ 回答したナーシングホームのうち 55%は赤字運営、また 89%は利益率が 3%以下だった。アシステッドリビングでは、50%が赤字、73%が利益率 3%以下だった。
 - ◇ ナーシングホームにおけるコスト増の主な要因は、PPE(97%)、職員の給与(78%)、追加の職員(46%)だった。アシステッドリビングでは、PPE(95%)、職員の「ヒーロー手当」(55%)、清掃用具(50%)だった。

- **米国：CMS の新たな Care Compare で医療や介護の情報が一元化**
 - <https://www.cms.gov/newsroom/press-releases/cms-care-compare-empowers-patients-when-making-important-health-care-decisions>
 - <https://www.medicare.gov/care-compare/> (Care Compare ホームページ)
 - メディケア・メディケイドサービスセンター(CMS)は 9 月 3 日、新たな Care Compare ウェブサイトを発表した。これまで Medicare.gov に掲載されていた 8 種類のサービス(医師・診療所、病院、ナーシングホーム、在宅医療、ホスピス、入所型リハビリ施設、長期介護病院、透析施設)比較ツールを再構築し、一元化して使いやすさを改善したものであり、サービス別に情報を検索する必要がなくなる。このサイトでは、各事業者の概要やサービスの質などに関する情報が掲載され、また複数の事業者を比較できるため、患者や介護者が情報に基づいてサービスを選ぶ際に参考となる。

- **インド：YouTube で大人気のおばあちゃん**
 - <https://edition.cnn.com/2020/08/19/asia/india-youtube-star-gangavva-spc-intl/index.html>
 - デジタル時代の今、オンラインでの逸材発見は珍しいことではなくなった。しかし Gangavva Milkuri 氏は、普通のユーチューバーとは訳が違う。8 人の孫を持ち年齢不詳(出生記録が無いため)の彼女は、インド南部の小さな村から、150 万人の登録者を誇る YouTube チャンネル「My Village Show」のスターとなったのである。このチャンネルは 2012 年に、映画製作者である義理の息子が立ち上げたもので、村の文化や家族生活をコメディタッチで描いている。YouTube スターとなる前の Gangavva 氏の生活は、決して楽なものではなかった。彼女は学校教育をほとんど受けておらず、農作業やタバコ作りで家族を支えた。My Village Show への関りが増えてから彼女の生活は一変し、2019 年にはチャンネル登録者が 100 万人に達したことで、YouTube から「金の盾」を受賞した。Gangavva 氏の活動は YouTube を超え、現在では自身のインスタグラムを立ち上げ、フォロワー数

は4万人を超えるほか、2019年には映画出演も果たした。上記チャンネルは広告での収入を得ており、これによって Gangavva 氏は安定した収入を得られるようになり、借金も返済できた。また Gangavva と義理の息子は村とも利益を共有し、製作事務所の中に、皆が使える小さな図書館を立ち上げた。

- オーストラリア:「エイジングのアート」写真展

- <https://nationalseniors.com.au/news/latest/is-there-an-art-to-ageingquestion>
- https://www.facs.nsw.gov.au/inclusion/seniors/overview/chapters/what-we-are-doing-under-the-strategy/art-exhibition?utm_source=National_Seniors_Australia&utm_medium=Email&utm_campaign=Connect%20E-News&utm_content=Connect%20E-News%3A%20130820 (写真の例を閲覧可能なページ)
- 「The Art of Ageing」は、ニューサウスウェールズ州(NSW)高齢化戦略 2016-2020 の下で行われている取り組みで、同州に暮らす高齢者の多様性や貢献を紹介する写真展であり、また「高齢」であることの一般的なイメージにも疑問を投げかけている。被写体はたとえば、元板金工、ブドウ栽培家、障害のあるドライバー、ベテラン俳優など様々で、写真展では、それぞれが地域に果たしてきた貢献を称えるとともに、芸術や文化活動における高齢者の参加促進を呼びかけている。この写真展は一時中断されたが再開され、州内各地で開催予定だが、上記ページでも写真を閲覧できる。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

- 米国:Healthy People 2030 の発表(8/18)

- <https://patientengagementhhs.com/news/hhs-targets-social-determinants-of-health-with-healthy-people-2030>
- <https://health.gov/our-work/healthy-people-2030>
- <https://health.gov/news/202008/healthy-people-2030-here>
- <https://health.gov/healthypeople> (公式ウェブサイト)
- <https://health.gov/healthypeople/objectives-and-data/browse-objectives/older-adults> (Healthy People 2030 高齢者特集ページ)
- 米国保健福祉省は2020年8月18日、Healthy People 2030を発表した。ここでは今後10年にわたって国民の健康やウェルビーイングを改善するために、データに基づく国の目標355点を掲げており、2030は第5期となる。2030版の主な特徴は、以下の通りである。
 - ◇ 今回初めて、健康の社会的決定要因(経済、教育、ケア、近隣地域など)がベンチマークに組み込まれた。
 - ◇ 健康格差やルスリテラシーに着目。
 - ◇ 新たな健康問題(COVID-19、オピオイド問題、若年者の電子タバコ使用など)に言及。
 - ◇ [テーマごとに検索しやすいホームページ\(※\)](#)のデザイン。たとえば疾患や健康状態(糖尿病、癌、肥満など)、保健行動(薬物使用、栄養、予防接種など)、人口グループ(若年者、高齢者など)などの選択肢をクリックすると、それぞれのテーマに合った目標リストが紹介される。

(※)テーマごとに検索しやすいホームページのサイト

<https://health.gov/healthypeople/objectives-and-data/browse-objectives>

- **【コロナ関連】**オーストラリア: COVID-19 の影響を直接受けた高齢者ケア事業者への資金援助 (8/19)
 - <https://www.health.gov.au/news/financial-support-for-aged-care-providers-directly-impacted-by-covid-19>
 - COVID-19 の影響を直接受けた高齢者ケア事業者には、オーストラリア政府より以下 2 つの新たな補助金が提供される。
 - ◇ The Aged Care Support Program(高齢者ケア支援プログラム): 入居者／クライアント／職員のうち、1 名以上が COVID-19 に感染したか隔離された結果、2021 年 2 月 24 日から 5 月 31 日までに費用が発生した事業所へ、還付金を支払う。
 - ◇ Support for Aged Care Workers in COVID-19(SACWIC: COVID-19 における高齢者ケア職員の支援): COVID-19 パンデミックの中で対象職員を支援した結果として生じた追加費用に対し、高齢者ケア事業者へ資金を提供する。この補助金は初め、COVID-19 ホットスポットであるメルボルンとミッチェル・シャイアに限定されるが、対象地域は必要に応じて拡大される可能性がある。



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される
報告書・ガイドブックなど

- **【コロナ関連】**欧州: Support for rehabilitation self-management after COVID-19-related illness (コロナ関連疾患後のリハビリ自己管理支援ガイド) (欧州 WHO が作成)
 - <https://www.euro.who.int/en/health-topics/Life-stages/disability-and-rehabilitation/publications/support-for-rehabilitation-self-management-after-covid-19-related-illness-2020>
 - <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/333287/WHO-EURO-2020-855-40590-54571-eng.pdf> (全文)
 - これは、COVID-19 で重症化した入院患者が退院した際に活用できるセルフケアガイドである。よく見られる COVID-19 の後遺症(呼吸、運動、発声、飲食・嚥下、思考、日常生活、ストレスなど)について役立つヒントを簡潔にまとめている。特に運動面にページを多く割いており、図も添えながら自分でできる運動について解説している。また、どのような時に医療専門職へ連絡すべきか、についても情報を掲載している。欧州各国で利用できるよう、上記ページからは多言語で資料をダウンロード可能。
- **【コロナ関連】**英国: Supported living services during coronavirus (COVID-19) (コロナ禍における支援付き住宅サービス) (保健省ガイダンス、8/6)
 - https://www.gov.uk/government/publications/supported-living-services-during-coronavirus-covid-19?wp-linkindex=5&utm_campaign=Coronavirus_social_care_update_7_August_2020&utm_content=dhsc-mail.co.uk&utm_medium=email&utm_source=Department_of_Health_and_Social_Care

- このガイダンスでは、以下について提示している。
 - ◇ コロナ・パンデミックの中で、支援付き住宅に住む人々へのリスクを最小限に抑えつつ、入居者へできる限りの支援を提供するために、地域での手順整備に向けた計画や準備を支援する主要メッセージ。
 - ◇ 安全な労働システム(例: ソーシャルディスタンス、呼吸器および手の衛生、清掃の強化)
 - ◇ 支援付き住宅における感染予防・感染管理・PPE の活用方法

- **【コロナ関連】英国: A mid-life employment crisis: how COVID-19 will affect the job prospects of older workers (中年期の雇用危機: COVID-19 は高齢者雇用の未来へどのような影響を及ぼすか) (Centre for Ageing Better 報告書)**
 - <https://www.ageing-better.org.uk/publications/mid-life-employment-crisis-how-covid-19-will-affect-job-prospects-older>
 - <https://www.ageing-better.org.uk/sites/default/files/2020-08/Tackling-worklessness-among-over-50s-after-covid-report.pdf> (全文)
 - コロナ・パンデミックによって、労働市場は危機状態に陥った。この危機は、高齢者の雇用が史上最高レベルに達した後に起きたものであり、パンデミックによってこの流れが変わり、高齢者の長期的な失業につながる可能性がある。パンデミックの結果、失業関連手当を受給する高齢者の数がほぼ倍増し、3月には30.4万だったが6月には58.8万に増加した。50-60代の就労者は、この年齢層ならではの大きな課題に直面しており、たとえば他の年齢層と比較して再就職に苦労する人の割合が高い。また、2020年10月の一時帰休制度終了に伴う高齢就労者の失業という「第2波」のリスクも存在する。高齢就労者の1/4(計250万人)が一時帰休の対象となっているが、業種によっては回復が難しいため、一時帰休対象者の多くがこれまでの仕事に戻れない可能性がある。この報告書では、COVID-19による長期失業を防ぐために政府がとれる高齢者支援策として、以下3点を提示している。
 - ◇ 新しい「Back-to-work」(仕事再開)支援プログラムは、「ワークプログラム」と同じ失敗を繰り返してはならない。
 - ◇ 25歳未満の就労者に対して、政府は幅広い研修プログラムの機会を発表したが、これと併せて、50歳以上を含むすべての成人を対象とした再教育支援も行うべきである。
 - ◇ 適切な対策をとれるよう、高齢者の経済状況、パンデミックが高齢者に及ぼした影響、考えられる高齢者支援策について更に理解する必要がある。

- **【コロナ関連】英国: 対面での安全な成人向けデイケア再開ガイド**
 - <https://www.scie.org.uk/care-providers/coronavirus-covid-19/day-care/safe-delivery>
 - デイサービスの事業者、ソーシャルワーカー、コミッショナーを対象としたこのガイドでは、ロックダウンの規制が緩和される中でのサービス再開・継続方法について提示している。
 - ◇ 実務面での情報: サービス再開時に考えるべきトピックについて(例: 建物の安全性、感染管理、ソーシャルディスタンス、PPE、輸送、対面/グループ活動の数など)
 - ◇ 再開に向けたアプローチ: 出発点の確認、利用者・家族・コミッショナー・その他関係者(例: 保険会社、建物管理業者、輸送サービス事業者)との対話など
 - ◇ リスクアセスメント: 利用者・介護者・家族の状態やニーズ、各サービスに関するリスク対応方法(参加者数、職員配置、感染時の対応など)、具体的な場所に関するリスク対応方法

(入口／出口の動線、最大収容人数、トイレや更衣室の衛生、道具を共有する際の対応)など

◇ 実践例およびツール

- **【コロナ関連】英国:ケアホームと支援付き住宅:COVID-19のロックダウン経験の学びと共有**
 - <https://www.scie.org.uk/care-providers/coronavirus-covid-19/care-homes/supported-living>
 - この資料では、COVID-19 関連の優れた実践を共有し、ケアホームや支援付き住宅を支援することを目指している。
 - ◇ 職員のウェルビーイング:スタッフへの心理的サポート、サポートライン、学習モジュール、死別への対応、ピアサポートなど
 - ◇ 感染管理とウェルビーイングのバランス:食事での特別メニュー、芸術、工芸、ゲーム、タブレット等の通信機器整備、屋外での映画上映など
 - ◇ 外部とのつながり再開(訪問者の受け入れ、入居者の外出など):面会スペースでの仕切りの設置、訪問者予約制の導入、面会時の職員見守り体制、外出時のフローチャート作成など

- **【コロナ関連】英国:Hospital discharge service: policy and operating model(退院サービス:政策および運営モデル)(保健省ガイダンス、8/21、8/25)**
 - <https://www.gov.uk/government/collections/hospital-discharge-service-guidance>
 - <https://www.gov.uk/government/publications/leaving-hospital-to-go-home-patient-leaflet>
(患者向けの簡易版および多言語版)
 - 2020年3月19日に保健省では、「COVID-19 退院サービス要件」を発表した。今回発表されたガイダンスは、3月の要件を差替えるものであり、安全な退院、最適な場所への移動、退院後のケアサービスの継続に向けた医療・ケアシステムの対応方法を提示している。ガイダンス以外にも上記ページからは、職種ごとの役割をまとめたアクションカード、継続的ヘルスケアの再開に関するガイドライン、患者や介護者向けのリーフレットを掲載。多国語(例:フランス語、中国語、アラビア語等)での患者向け資料翻訳版も発表。

- **英国:End-of-life Care Toolkits for Carers at Home(自宅介護者向けの終末期ケアツールキット)**
 - <https://helixcentre.com/project-end-of-life-toolkit>
 - <https://helixcentre.com/content-img/projects/eolc-toolkit/Practical-Care-For-Dying-Person-Toolkit.pdf> (ガイド)
 - Helix Centre ではこれまでも、アドバンス・ケア・プランニングの普及など終末期ケアに取り組んできた。この度のコロナ・パンデミックにより、患者の終末期に家族・友人・ボランティア・GPが行わなければならない事が増えると思込まれることから、同センターはこの課題へ対応するために、他団体と協力し、終末期を迎える人々とその介護者を支援するための信頼できるツールを作成した。これはNHSトラストや地域団体、ケアホーム、ホスピスなど様々な所で活用できる。ガイド自体は2ページと短いですが、コミュニケーション、疼痛、排せつ、体位交換、口腔ケアなど様々なテーマについて、簡潔に情報をまとめている。またガイド以外でも、上記サイトからは必要な場合の皮下注射の方法などについても情報を掲載している。

- **【コロナ関連】**アイルランド:Caring and Coping with Dementia During COVID-19(コロナ禍における認知症のケアと対処)(アイルランドアルツハイマー協会報告書)
 - <https://alzheimer.ie/wp-content/uploads/2020/07/ASI-Follow-Up-Covid-Report-Final.pdf>
(全文)
 - この報告書では、アイルランドアルツハイマー協会が2020年6月に実施した全国調査の結果をまとめており、その目的は、認知症の人やその介護者がいかにしてCOVID-19に対処しているか、またその人たちの課題やニーズについて理解することである。この調査はオンラインと電話で行われ、認知症の人15名と介護者126名が回答した。調査の結果、サービスや支援が止められたことによる状況の悪化が示された。介護者の課題としては、たとえば医療での予約キャンセルや延期、認知症の症状(行動を含む)悪化、要介護者の日常的なルーティーン消失、不安などが挙げられた。認知症の人も同様の課題を挙げていた。また孤独、社会的孤立、介護負担から生じるストレス上昇などが、燃えつきや危機につながるといった問題も挙げられた。COVID-19によるロックダウン規制が緩和された一方で、認知症専門サービスへの規制は続き、これによって介護者のウェルビーイングやメンタルヘルスへ更に大きな負担がもたらされた。

- **オーストラリア:Models of Integrated Care, Health and Housing(ケア・医療・住宅の統合モデル)(王立委員会研究論文7)**
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/news-and-media/new-research-models-integrated-care-health-and-housing>
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-08/Research%20Paper%20-%20-%20Models%20of%20integrated%20care%2C%20health%20and%20housing.pdf> (全文)
 - 統合ケアモデルに関する文献レビューおよび、専門家や提供者との協議をまとめたこの報告書では、高齢者の統合ケアモデル(医療、社会的ケアおよび住宅)の概説および分析を行っている。調査の結果、統合ケアが最も効果的に機能するのは、共通目標に基づく組織間の公式なパートナーシップにより、ボトムアップかつ地域重視のプロセスで行われる場合であることが分かった。調査結果からはまた、以下の点について更に検討できることが示唆された。
 - ◇ 医療や高齢者ケアなどのサービス入り口における高齢者の支援
 - ◇ 地域レベルでの取り組み推進(地域住民とサービスとの信頼や関係性構築)
 - ◇ 統合ケア提供に向けた他団体との連携構築で、高齢者ケア事業者が直面するバリアの分析
 - ◇ 利用者が選べる住宅オプションに在宅ケアを組み込む柔軟な選択肢の検討
 - ◇ 安全で住みやすく、かつ地域ともつながりながら年を重ねられる住宅オプションを提供する、共同住宅モデル開発の支援
 - ◇ 高齢者に対する様々なサービスへの輸送やアクセス確保
 - ◇ 地域ベースの団体による積極的な高齢者支援を実現する持続可能な財源
 - ◇ 地域の視点を組み込んだガバナンス
 - ◇ 利益ではなく地域を重視したリーダーシップ
 - ◇ 孤立した形での高齢者ケアではなく、高齢者を地域に組み込んだ世代間ライフコースアプローチ

- **オーストラリア:International and National Quality and Safety Indicators for Aged Care(高齢者ケアに**

関する国内外の品質・安全指標)(王立委員会研究論文 8)

- <https://agedcare.royalcommission.gov.au/news-and-media/australia-far-behind-monitoring-aged-care-quality>
- https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-08/research_paper_8_-_international_and_national_quality_and_safety_indicators_for_aged_care.pdf (全文)
- 高齢者ケアの品質アウトカムに関する様々な側面で、オーストラリアが他の主要国と同様に、独立して透明性があり定期的なモニタリングと報告を直ちに行うのは可能である、ということが新たな調査で示された。オーストラリア政府は現在、在宅ケアの品質アウトカムについて報告を全く義務付けておらず、施設ケアについても指標は3点のみである。しかし高齢者ケア事業者へ負担をかけずに、既存データから様々な品質アウトカム指標を作成できる、とこの調査では示している。たとえば投薬関連のケアの質、転倒や骨折、再入院、認知症/せん妄による入院、疼痛、早期死亡、褥瘡、ケアプランの使用、体重減少などが挙げられる。この調査では、11か国(オーストラリア、ニュージーランド、米国、カナダ、英国、オランダ、ドイツ、デンマーク、フィンランド、スウェーデン、アイスランド)におけるケアの品質指標 305 点を分析した。調査結果に基づいて報告書では、オーストラリアで独立機関が品質のモニタリングおよび報告を監督(データ管理やエビデンスに基づく目標設定を含む)するよう提案している。

● オーストラリア: Aged care reform: projecting future impacts(高齢者ケア改革: 将来的な効果の予測)(王立委員会研究論文 11)

- <https://agedcare.royalcommission.gov.au/news-and-media/high-quality-aged-care-affordable-and-achievable-7-september-2020>
- <https://agedcare.royalcommission.gov.au/sites/default/files/2020-09/research-paper-11-aged-care-reform-projecting-future-impacts.pdf> (全文)
- 以前の報告書(王立委員会論文6のこと。先月の海外情報参照)では、質の高い高齢者ケアへアクセスできるならば、オーストラリアの国民は所得税を現在より 3.1%多く払う意思がある、という結果が出ていた。今回の報告では経済モデリングの結果、高齢者ケア改革に必要な金額は、1%の所得税引き上げに相当することが示された。したがって同国における総合的な高齢者ケア改革は、財務的に実現可能であると見られる。なお、この報告で考慮された改革内容には、以下が含まれる。
 - ◇ 高齢者ケアホームでの職員配置で4つ星レベルを義務付ける
 - ◇ 他のスタッフ要件改善(介護職の研修や全国レベルでの登録など)
 - ◇ 在宅ケアパッケージの上限撤廃(待機リストなし)
 - ◇ 医療サービスの大幅改善(GP、心理士、歯科医、リハビリへのアクセス改善など)
 - ◇ インフォーマル介護者を支援するレスパイトサービスへのアクセス改善
 - ◇ 若年障害者を、高齢者ケアホームから適切な場所へ移動
 - ◇ 高齢者ケアの利用で支援を必要とする人へ、対面で支援を提供する新たなケースマネジメントチーム
 - ◇ 家族や友人などの支援者がいない高齢者を援助する公的後見人の資源改善

● オーストラリア: The Future of Telehealth- Refining the Blend. KEY INSIGHTS FROM AN EXPANSIVE STUDY INTO AUSTRALIA'S RESPONSE TO COVID-19(テレヘルスの未来—組み合わせの改良:

オーストラリアの COVID-19 対応に関する調査からの主な知見)

- <https://www.gcma.net.au/covid19/the-future-of-telehealth-refining-the-blend> (全文ダウンロードは登録しないとできないようですが、ご入用であれば私の方でダウンロードしましたのでおっしやてください。)
- The Global Centre for Modern Ageing (GCMA) では、COVID-19 での様々な制限に対するオーストラリア人の反応に関する調査第 3 弾で、高齢者による対面・ビデオ・電話での受診経験を比較した。この調査では、年齢層による比較のほか、予約の目的や医療職との関係性についても分析した。調査の結果、回答者たちは「対面」対「テレヘルス」という二者からの選択というよりは、両者をどのように組み合わせるのが最適かについて検討していた。その他の主な結果は以下の通り。
 - ◇ テレヘルスの経験は、肯定的な意見が引き続き見られる。
 - ◇ テレヘルスのテクノロジーは、様々な機器やソフトウェアで利用できるようにすべき。
 - ◇ 患者と実務者とのこれまでの関係性は、テレヘルス利用満足度で重要な要素。
 - ◇ 対面とテレヘルスサービスの最適な組み合わせは、予約の目的や患者の嗜好などを考慮すべき(例:新たな症状での診療や総合健診などは対面が好まれるが、検査結果の知らせや薬の処方などはテレヘルスで OK など)。
 - ◇ テレヘルスの利点は認知されているが、プライバシーやテクノロジー、サービスの質などについて懸念や要改善点あり。

● ニュージーランド: Thematic Report: Older Prisoners: The lived experience of older people in New Zealand prisons (テーマ別報告: 高齢受刑者: ニュージーランドの刑務所における高齢者の生活)

- https://inspectorate.corrections.govt.nz/news/news_items/treatment_and_conditions_of_older_people_in_the_prison_network
- https://inspectorate.corrections.govt.nz/_data/assets/pdf_file/0009/41103/Older_prisoners_thematic_report.pdf (全文)
- この報告書では、刑務所における高齢者の処遇や状況についてまとめている。65 歳以上の受刑者数は増加しており、その主な要因は、刑期の長期化および性的犯罪での服役者増加である。刑務所の高齢化はニュージーランドに限ったことではなく、世界中の多くの地域で同じ問題に直面している。この報告では、全体として高齢受刑者の基本的ニーズは満たされていることが分かった。刑務官たちは工夫を凝らし、受刑者を気にかけて、また敬意を持った意思決定を行っていた。しかし、ケアホームのような環境での高齢受刑者への対応や、高齢受刑者特有のニーズを支えるスタッフの需要が増えている。報告書では、高齢受刑者のニーズに応える総合的な戦略の策定・資源確保・実施を提案している。報告書で詳細に分析された内容は、環境、安全で人道的な処遇、健康とウェルビーイング、目的を持った活動、リハビリテーションと再統合、出所後の支援、および職員研修である。なお、この報告書には、高齢受刑者および職員とのインタビュー内容が反映されている。

● ニュージーランド: Age friendly Aotearoa New Zealand Toolkit (エイジフレンドリー・ニュージーランド・ツールキット)

- <http://www.superseniors.msd.govt.nz/age-friendly-communities/age-friendly-aotearoa-new-zealand-toolkit/index.html>
- <http://www.superseniors.msd.govt.nz/documents/age-friendly-communities/toolkit.pdf> (全

文)

- 地域でエイジフレンドリーの取り組みを進める際の参考とするために、Office for Seniors ではツールキットを作成した。これは WHO のエイジフレンドリーシティ&コミュニティモデルに基づいているほか、地域の団体とも話し合い、組み込むべき内容を検討した上で作成された。内容は、エイジフレンドリーシティの概要とともに、ステップごと(開始、アセスメント、計画、実施、評価)の説明を掲載している。また、国内外の実践例(詳細情報へのリンク含む)やその他の参考資料も紹介している。